

教育委員会事務局文化財課
担当者 安（やす）
内 線 5625
直 通 225-1844

重要無形文化財の指定について

令和8年10月16日(金)に開催された国の文化審議会（会長 ^{ひびの}日比野 ^{かつひこ}克彦）において、文部科学大臣から諮問のあった下記の文化財の指定が審議され、答申された。今回の答申どおり指定されれば県内の重要無形文化財は13件となる。

記

重要無形文化財 吟醸造り

重要無形文化財の指定及び保持者の認定について

(1) 登録無形文化財の登録

名 称 ぎんじょうづくり
吟醸造り

概 要

吟醸造りは、手間と原料を惜しむことなく投入することで耽美的な味と香りを追求した酒（吟醸酒）を製造するわざである。

酒は誕生して以来、様々な改良が加えられることで、安定生産に向けた製法の確立と、嗜好品としての酒質の向上が図られてきた。その過程で、精米が酒質と深く関わりを持つことも見出され、近代以降に精米機が発達した結果、人々に感銘をもたらす味や香りを造り出す高度なわざが確立し、これが吟醸造りと呼ばれるようになった。

以上のように、吟醸造りのわざは、芸術上特に価値が高く、かつ、生活文化に係る歴史上特に重要な地位を占めるものである。

(2) 保持者の認定

①保持者

氏 名 のぐち なおひこ
農口 尚彦

生年月日 昭和7年12月24日（満93歳）

住 所 石川県鳳珠郡能登町

②保持者の特徴

同人は、吟醸造りのわざを高度に体得し、伝統的な酒造りにおいて斯界を代表する杜氏とうじの一人として高く評価されている。同人は昭和50年代以降にみられるようになった吟醸酒ブームを牽引した功労者の一人として名高く、吟醸酒の名声を高めることに大いに貢献した。また、後進の指導・育成に尽力し、多くの杜氏を輩出している。

③保持者の概要

同人は、昭和7年に能登杜氏であった農口のぐちよしたろう由太郎の子として、石川県珠洲郡木郎村もくろうむら（現 鳳珠郡能登町）に生まれた。そして中学校卒業後に酒造りの世界に入り、今日に至るまで70年以上にわたって酒造りに従事してきた。さらに28歳で製造責任者である杜氏に就き、杜氏歴も60年以上に及ぶ。

その結果、同人は、吟醸造りのわざを競う全国新酒鑑評会において、最上位の賞である金賞をこれまでに計２６回獲得しており、国内有数の受賞回数を誇っている。

同人は昭和５０年代以降にみられるようになった吟醸酒ブームを牽引した功労者の一人として名高い。同人の醸した酒は、各所で結成された酒の愛好会において高い評価を得たことで、吟醸酒の名声を高めることに大いに貢献した。

同人は、令和３年に登録無形文化財「伝統的酒造り」の保持団体である日本の伝統的なこうじ菌を使った酒造り技術の保存会の会員になっている。また、吟醸造りのわざの継承を図るために、長年の酒造りを通じて多くの杜氏を輩出するなど、後進の指導・育成に尽力している。これらの取組により、同人に対しては令和８年に石川県指定無形文化財「日本酒杜氏」の保持者認定がなされた。

以上のように、同人は、吟醸造りのわざを高度に正しく体得しており、かつ、これに精通している。

④保持者の略歴

昭和２４年	山中正吉商店（現 富士高砂酒造株式会社）で酒造工
同 ２８年	株式会社西井久兵衛商店で酒母係 ^{しゅぼ}
同 ３２年	株式会社大村屋酒造場で頭 ^{かしら}
同 ３６年	菊姫合資会社で杜氏
同 ４２年	全国新酒鑑評会にて金賞受賞（以後、現在までに計２６回受賞）
平成１０年	鹿野酒造合資会社（現 鹿野酒造株式会社）で杜氏（同２４年まで）
同 １８年	卓越した技能者の表彰（現代の名工）
同 ２０年	黄綬褒章
同 ２５年	農口酒造株式会社で杜氏（同２７年まで）
同 ２９年	株式会社農口尚彦研究所で杜氏（現在に至る）
令和 ３年	登録無形文化財「伝統的酒造り」保持団体日本の伝統的なこうじ菌を使った酒造り技術の保存会会員（現在に至る）
同 ５年	文化庁長官表彰
同 ６年	「いしかわの食の巨匠」表彰
同 ８年	石川県指定無形文化財「日本酒杜氏」保持者認定（現在に至る）

（３）備考

同分野の既認定者 なし

保持者写真

